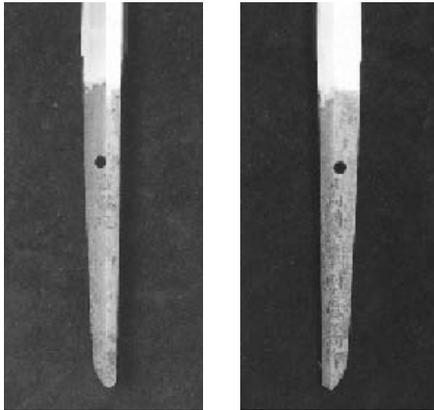


85 こ だ ち こ ぎ つ ね ま る 小太刀古狐丸



指 定 市有形文化財 昭和60年 3 月28日
 所在地 入 沢
 所有者 日向 廣邦

この小太刀古狐丸は、刀身の表に「日向伝左衛門広高作」裏に「古狐丸」の刀銘がある。刀身の寸法は、刀長49.5cm、反り1.1cm、元幅2.5cm、先幅1.8cm、鋒長2.8cm、茎の長さは15.8cm、硬軟の鉄をよく錬成して美しい地肌をもつ優美な作刀である。

この古狐丸は、田野口藩某の注文により作刀したものである。この刀は平安時代後期、品格の高い作風をもって知られる三条小鍛治宗近の名作、小狐丸に範をとって作刀したと伝えられ、現在は生家の子孫である日向廣邦氏宅に所蔵されている。

作者伝左衛門尉広高は、入沢の刀匠日向儀右衛門広基の長男として元文2年（1737）に生まれ、父につき修業を重ねた後、濃州関の刀匠稲津河内守に弟子入りし、刀工としての技を磨き、帰郷して刀鍛冶の業に励んだのである。

広高が特に刀工として活躍した時代は、寛政、享和、文化の頃で、田野口藩陣屋日記にもつぎのような活躍の一部が記されている。

- 大小ならびに相差一腰を藩主に献上したこと
- 鬮籥（ふいご）をはじめて献上したこと
- 名字・帯刀を許されたこと

さらに、広高は、新海三社神社ほか数社にも御神刀を奉納したとの記録がある。

伝左衛門尉は、龍泉子・休庵入道等の刀銘も入れている。

広高は、文化15年（1818）80歳で没した。